

第1回会津美里町投票区再編検討委員会

【議事録】

委員長：それでは、暫時の間、議事を進行してまいります。

委員長：次第の「6.投票区の現状について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明の概要】

事務局：本日は第1回目でありますので、再編を前提とするものではなく、現状の共有を目的といたします。終盤に一般的に再編を行った場合のメリット・デメリットと他市町村の事例を紹介いたしますが、今後の検討材料としてご理解いただければと思います。

それでは投票区の現状について事務局より説明いたします。

(詳細は資料のとおり)

- 投票区数について
 - 有権者数の推移①について(町全体)
 - 有権者数の推移②について(投票区別)
 - 投票率の推移
 - 期日前投票者数の推移①について(投票総数に占める期日前投票者数の割合)
 - 期日前投票者数の推移②について(当日投票者数と期日前投票者数の推移)
 - 各投票区別の当日投票者数
 - 投票所運営の状況について①(施設・環境)
 - 投票所運営の状況について②(運営体制)
 - 投票所運営の状況について③(財政)
 - 投票所運営の状況について④(R7 参院選アンケート調査結果)
 - 投票区再編を行った場合のメリット・デメリット
 - 懸念事項(デメリット)解消への他自治体の取組
- 以上で投票区の現状について説明を終わります。

委員長：はい、ありがとうございました。

委員の皆さん方から何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

委員：(複数の委員から意見あり)

①投票率向上と再編について

- 本町の投票率は低い状況にあり、投票区再編は、単なる統廃合ではなく、投票率向上と同時に取り組むべきである。
- 再編した結果、さらに投票率が下がることがあってはならないと思う。
- 若年層・高齢者層それぞれの実情を踏まえた対策が必要。

②第 51 回衆議院議員総選挙における期日前投票の周知不足について

- 期日前投票初日に町内放送はあったが、「入場券がなくても投票できる」という案内がなかったため、入場券が届いていない段階でも投票可能であることを周知すべき。
- 期日前投票 1 日目・2 日目の投票者数が少なかったのは、周知不足の可能性はある。
- 広報・ホームページ等を活用し、より具体的な案内を行うべき。

事務局：回答 ①投票率向上と再編について

- 再編の基本姿勢については、再編は単なる統廃合ではなく、再編後も投票しやすい環境づくりを進め、投票率を維持していく必要があります。それと同時に将来を見据えた持続可能な投票環境の構築を目指すため、長期的な視点で検討していく必要があります。
- 方向性を急ぐのではなく、委員の意見を踏まえ整理していきます。

回答 ②第 51 回衆議院議員総選挙における期日前投票の周知不足について

今回は衆議院解散という急遽の選挙執行となったため、入場券の発送が選挙公示後となり、次回の選挙では、これまでどおり公示日頃には各家庭に届くようにします。また、入場券がなくても投票可能であることの周知については、防災情報システムによる放送は、放送内容が長文になると聞き取りづらいため、今後もホームページ・広報等で周知を強化し、周知不足については改善していきます。

委員：③高齢者・交通弱者への配慮

- 再編した場合、最も影響を受けるのは高齢者や交通手段を持たない方々であり、再編は効率だけでなく、福祉的観点を持つべき。
- 実際に困るのは山間部の地域住民である。
- 「歩いて行ける投票所」という理念を大切に、公共交通を利用できない高齢者の実情も踏まえるべき。
- 投票所が 300 メートル離れていれば、車で投票に行く。
- そのような対象となる町民の声をアンケート等で聞き取りなど、実態把握を行うことが必要。

事務局：回答③高齢者・交通弱者への配慮

家族がいない方や車を持たない方への対応は重要であり、今後委員の意見を踏まえ、整理していきます。再編の議論においても、再編は効率だけでなく、福祉的観点も重要なポイントとして検討を進めていく。

委員：④費用対効果と行政の責任について

- コスト面の資料があったが、現代においては費用対効果の時代は終わっていると考えている。単なる経費削減ではなく、地域にとって何が重要かという視点が重要。

- 投票所ごとに投票者数が極端に少ないケースもある。
- 1日配置している人員や経費とのバランスを検証すべき。
- ただ維持するのではなく、合理的な運営体制を検討する必要がある。

事務局：回答④費用対効果と行政の責任について

ご指摘のとおり、単純な費用対効果のみで判断するのではなく、地域にとって何が必要かという視点が重要であると認識しています。コスト面の資料については、あくまで参考として選挙経費がどのくらい掛かるかを示したもので、コスト面だけで投票区再編しようということではありません。

今しながら、現実的な課題として、国・県選挙については一定の財政措置が講じられているものの、町単独選挙においては町の財政負担が大きい状況にあります。限られた人員・財源の中で持続可能な選挙執行体制を維持することも重要なポイントであるため、総合的に検討していく必要があります。

委員：⑤投票所運営体制と選挙人の心理的ハードルについて

- 立会人や管理者の確保が困難であれば、シルバー人材の活用など柔軟な人材確保を検討すべき。
- 普段使い慣れていない施設へ行くことは高齢者にとって大きな心理的ハードルになる。

⑥データ分析の必要性

年代別投票率、地区別投票率などを分析し、合理的な検討とすべき。

⑦若年層・全有権者への周知について

- 若い世代の中には、投票方法、制度や投票場所がよく分からない人もいる。
- 高齢者だけでなく、18歳以上のすべての有権者を対象にした案内が必要。

委員長：⑧再編の方向性について

投票区を思い切って集約すべきという意見もあれば、細かく設置すべきという意見もある。次回会議までに各自が持ち帰り検討し、より具体的な議論を行うべき。

事務局：回答⑤⑥⑦⑧

頂戴したご意見を踏まえ、検討重ね、具体的な方向性を次回以降で議論していきます。

委員：⑨共通投票所について

共通投票所のデメリットはあるのか。

事務局：回答⑨共通投票所について

共通投票所では投票の重複防止のため、オンラインでの名簿照合が必要であり、インターネット環境が整備されていない施設では共通投票所の設置は困難と考えます。

設置する場合、現在の投票所がそのような基準を満たしているのか確認が必要となります。

委員：⑩移動期日前投票所の悪天候時の対応について

移動期日前投票所が中止になった事例があるとはどういった理由か。

事務局：回答⑩移動期日前投票所の悪天候時の対応について

悪天候時に屋外で受付対応を行うことはリスクが高く、リスク回避のため予め移動期日前投票所を開所しないこととしたようです。天候リスクも検討の要素になります。

委員：⑫投票所の施設環境について

- 投票所は暗い・寒い・暑いなど、環境が十分でない場所もある。
- エアコンの有無、暖房設備など施設条件を明確に整理すべきで、各投票所の設備状況を一覧化してほしい。
- 選挙だけのために設備整備するのは難しい現実も理解している。

事務局：回答⑫投票所の施設環境について

選挙専用空調設備を整備することは現実的に困難で、施設は選挙専用ではなく、他用途での使用が専らであります。各投票所の設備状況一覧化は、次第のある資料 P8 に掲載しております。

委員：⑬福祉施設等の活用提案

デイサービス利用者など、施設利用中に投票できる仕組みがあればよいのではないか。設備が整っている場所での投票は利便性が高い。

事務局：回答⑬福祉施設等の活用提案

そのような施設で投票することが法的に可能か、他自治体の例があるかを含め確認します。

委員長：⑭距離・移動手段の考え方

- 投票所を歩いていくことができる 300 メートル以内に集約することが必ずしも正解とは限らない。車送迎や家族の協力など現実的な移動手段もある。
- 交通弱者だけに焦点を当てすぎると、論点が足の確保だけになることもある。視点整理や全体最適にならない可能性もある。
- 投票者全体の実態に合わせた検討が必要。

委員：⑮投票区図面の要望

- 各投票区が分かる図面を提示してほしい。検討の議論がしやすくなる。

事務局：⑮投票区図面の要望

次回検討していくうえで図面を含め必要な資料を用意していきます。

委員長：以上で「投票区の現状について」は終了いたします。

委員長：続きまして、「7.今後のスケジュールについて」事務局より説明をお願いいたします。

事務局：次回は2月26日（木）午後1時30分から、206会議室にて開催になります。

各委員は、今回の内容を持ち帰り検討いただき、次回、より具体的な議論を行いたいの
で、次回もよろしくをお願いいたします。

委員長：以上で議事を終了します。皆様ありがとうございました。